



成長と豊かさという幻想と新たな経済と生活という現実

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

過去における経済成長は、GDP と所得の増加において、貨幣価値と購買力における豊かさの創造を与え、これらは現実の経済第一主義の源泉となっている。しかしこれらは資本力と新しい技術という新しい時代の現実に対してそれらの真実を疑問視しなくてはならないのである。

現在の経済は資本力と技術においてグローバル市場における占有を有する。これらは将来への序曲であることは正しいのである。また中国包囲網は、完全な仮想敵国として中国への戦いを求めるものである。またロシアと中国、イランと北朝鮮の同盟は、完全な悪の枢軸として自由主義陣営の最終戦争を予測させるものである。

これらは外交戦略において、第3極の構築を提案できるものである。これらは公正な世界という合意における外交行動とグループの形成を提案できるものである。これらは西洋という優位性への挑戦であり、平等な世界の提案なのである。

これらは必ず2極化した世界への打開を可能とできるものである。これは南米やアフリカ諸国、アジア諸国の合意を有することは可能と考える。これら多数における世界の現実への参加は、新たな対話の可能英を提案できるのである。

これらは2国間における外交交渉において多数の合意形成を求め、現実という新世界秩序への対峙を提案できるものである。

これらは西洋における世界の占有からすべての人種における共有への転換を世界へ対峙することであり、新たな外交行動と新規グループ形成は、世界の現実への多分な変化を提案することなのである。

これらは第3次世界大戦という未来へ、共生と共存と言う新たなアイデアにおいて世界との対話を提案することなのである。

これらは世界の融和と平和という合意における世界との真摯な対話であり、共有の未来の提案なのである。